

「慶安の庚申塔」

松伏町指定有形民俗文化財
平成27年3月25日指定

庚申信仰は江戸時代に全国的に流行した民間信仰です。主に長生を願う目的で行われ、町内でも明治時代に至るまでの104基が確認されています。

「慶安の庚申塔」は大川戸神明社の境内にあり、慶安2年（1649）の造立です。江戸時代前期の墓石と思われていましたが、再調査の結果、庚申塔と判明しました。これまで町最古とされていた大川戸妙楽寺の「延宝の庚申塔」（町指定有形民俗文化財）の延宝5年（1677）を遡ります。

形態的には、同時代の墓石と変わるところがなく、庚申塔の特徴である三猿も刻まれていませんが、これらが江戸時代前期の庚申塔の特徴と言えます。両脇に未開敷蓮華（蓮の花の蕾）、下部に沢瀉（オモダカ科オモダカ属の水生植物）が刻まれているのも特徴的です。



ウーシ 奉待庚申□三年為二世安樂也
庚申待結衆拾一人
二月吉日
（未開敷蓮華）
慶安二年 八郷之内
「」人
（沢瀉）